

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における井高野小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・井高野小学校では、5年生 50名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

井高野小	学校	児童数	50
------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.47	18.22	31.47	42.37	45.71	9.52	146.74	21.47	52.47
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	17.79	18.69	36.24	39.83	41.72	10.00	141.76	14.34	54.79
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

男子の体力合計点は、大阪市平均を上回る結果となった。握力、反復横跳び、ソフトボール投げについては、市平均・全国平均ともに上回っている。女子は、体力合計点において市平均・全国平均ともに上回っており、握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、ソフトボール投げについても市平均・全国平均を上回る結果となり、男女とも体力、運動能力が育まれてきていると言える。しかしながら、長座体前屈や50m走においては、男女ともに市・全国平均を下回っており、柔軟性や俊敏性には課題が見られた。

「運動やスポーツをすることは好きですか。」の質問に肯定的に答える児童の割合は、男子は100%であり、体を動かすことをとても好んでいる。一方、女子は82.8%と市・全国平均を若干下回っている。男女ともに「体育の授業は楽しいですか。」の質問には90%以上の児童が肯定的に回答しており、体育学習への意欲が感じられる。

また、「1週間の総運動量が60分未満」と答える児童の割合は、男子が16.7%、女子が11.5%と、男子については市・全国平均を上回っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

○成果

- ・校舎増築工事のため、運動する場に制限がある中で、学期に1回の運動週間の取組や体育の授業での工夫により、運動の機会を確保するよう取組を進めてきたことで、体を動かすことを好む児童の割合が増えた。
- ・体育の学習におけるルールや場の設定、ICT活用などの工夫をしてきたことで、主体的・協働的に学びを進めようとする姿が育ちつつある。

○課題

- ・来年度秋まで工事が続くことから、運動の場の確保や限られた場所での運動の工夫に引き続き務める必要がある。特に、今年度の課題でもあった俊敏性や柔軟性を高めることに重点を置いた取組を進める。
- ・早寝・早起きなどの健康な生活についての意識向上に努める必要がある。